

10月20日~23日の措置(休講)について

昭和46年10月23日

明治大学

本学は駿河台校舎を10月20日、21日の両日、和泉校舎では21日午前中、生田校舎は、21日~23日の3日間以下の理由で休講措置をとった。

駿河台校舎では19日夕刻から「駿河台学生会館解放」を唱える他大学学生を含む黒、青、赤ヘルメット着用、角材・鉄パイプ持参の集団約200名が、学館前に集まり塀の鉄柵、門扉、建物の一部を破壊し、「解放区」と称して周辺道路上に木材、器物を持出したばかりか、第90回駿台祭用のポスター掲示板の板まではがし、これを積み上げて放火、あるいはお茶の水駅前交番付近に火焰びんを投げるなどの暴行をおこなった。このため大学前の明大通りなどの交通が大混乱となり、一般通行人、付近住民にも大きな迷惑をかけるという事態となった。この状況から大学は二部の授業を第3時限目から休講し、翌20日はこのような状況から不測の事態がおこることをさけるため、同日未明駿河台校舎関係の臨時休校を決定した。さらに21日は「第6回国際反戦デー」で、都内各所で過激派の集会在り予定され、しかも最近の一連の過激派のゲリラ活動が予想されるとき、本学を拠点としあるいは「学館解放」を口実に再び大学周辺で混乱事態が発生、予期しない事態のおこるのを防ぐためやむを得ず休校とすることにした。

10月21日和泉校舎、生田校舎は平常通り授業を実施することにしていた。ところが、

和泉校舎では午前8時すぎから黒、赤、青ヘルメット姿の学生約30名が校舎各門を封鎖、正門には立看板を出し学生、教職員の入構を妨害した。このため午前中の授業を休講とし、午後は中庭で集会を開くものがあったが授業は実施した。

生田校舎では午前5時ごろ、生田寮の方からヘルメット姿の者50~60名が現われ、旧農学部倉庫に侵入、机などを運び出し、校門に積み上げバリケードとし、さらに正門には「10・21全学バリケードスト決行中」といった立看板を出し、会議室の机を持ち出し積み上げ、各校舎入口の扉を針金で結び封鎖した。さらに角材を持った者約30名が、前夜から宿直中の職員5名と守衛所の警備員を強制的に構外に退去させ、校舎を占拠することとなった。こうしたことから事態の混乱をさけて工、農両学部ともに午前午後を通じ休講とし、さらに校内状況から22日、23日の両日も休講した。

なお、「駿河台学生会館解放」は19日夜の破壊行為の名目となり、また日ごろの立看板・ビラ等で叫ばれているが、これについてはさる7月10日付「駿河台学生会館はなぜ閉鎖されているか」という文書をはじめ数度にわたり大学の見解と説明を述べてきたが、さらにその要点を述べ多くの学生諸君の理解を期待したい。

①学生会館に対する大学の見解は、

学生会館は学生諸君の自治活動にとって必要な「総合センター」として生まれたものであり、したがって本来は全学生の自由な学習と研修の場として、また心身の憩いの場として開放されているべきものであり、そのさい学生諸君自らの責任と規律にもとづいて全学生の利益のために運営されるべきものである、という考え方は変わらない。

②この学生会館が閉鎖されているのは、

44年10月9日大学が学生会館を閉鎖した当時、学生会館は、学内外の過激派学生の常時宿泊の場と化し、角材、火焰びん、石塊など武器・凶器・危険物の貯蔵庫あるいはこれをもってする街頭行動の拠点とされ、お茶の水周辺でおきた「神田カルチャータン」闘争の拠点ともなり、大学周辺の商店や住民への被害と迷惑は大きなものであった。大学はそれまで「学生会」ならびに「学苑会」の中核や「学館運営委員会」などに対して、学館の正常な運営を行なうよう、しばしば注意し、警告を行なってきたが、それらは全く無視されてこのような暴力の拠点とされてきていたのである。諸君の学生会館は、一部の学生のみ占有物と化し、どうみても本来の機能を果していると言えるものではなかった。そこでやむをえず大学は過激派学生による校舎封鎖を解除すると同時に、学生会館は閉鎖しそれが現在まで続いているのである。

③もちろん大学は、できるだけ早く学館や部室の開放を行ないたいと思っている。そのためには、まず学生会館の民主的な運営管理を行なうべき学生の代表機関である「学館特別委員会」の選出方法、その権限と責任の明確化とそれらの委員の民主的な選出が必要であるし、この特別委員会に学館を暴力の拠点とするような行為があってはならないのである。

これについて、本年6月ごろ大学周辺で配られたアジビラに、「駿河台、和泉、生田三地区の運営委員会の有機的な結合を勝ちとり学館特別委員会を結成した」と述べていたが、この選出がどのような学生によっていかなる方法で選ばれたか明らかでない点があった。

④しかも、この「学館特別委員会」の名をもって、「6.29学館解放1周年集会」が駿河台で開かれたさい夕刻から黒、青、赤ヘルメット着用の学生集団が集合し、学生会館の正門鉄扉鉄柵を破壊し、建物に乱入し、破壊行動をおこない、構内にあった自動車、机、椅子などを街頭に持ち出し交通の妨害をした。その後も現在まで、補修を行なうたびにこれを破損するという行為がくりかえされてきていることは、諸君達の周知のところである。

このような駿河台学生会館を暴力で開放しようとするごく少数の過激派学生の行為は、学館を権力に対する反撃の砦にしようとする彼らの目的と軌を一にするものであり、学生諸君が学生会館に期待するものから全く離れたものなのである。

大学は学館問題の解決を衷心より期待しているものであるが、その真の解決は、一日も早く、大学内はもちろん、学外からの暴力を排除し、大学の自治をとりもどすことによつてのみ可能である。学生諸君の理解と協力を望む次第である。以上